

公表

## 事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	ののほな		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 6日		～ 2026年 3月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2026年 3月 6日		～ 2026年 3月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所では、スプレッドシート等のICTツールを活用し、日々の支援内容や子どもの様子について職員間で情報共有を行っています。 支援中に気づいたことや対応のポイントをその都度共有することで、担当者が変わっても対応に大きな差が出ないようにし、できるだけ一貫した支援ができるようにしています。また、情報を蓄積していくことで、過去の経過も振り返りやすくなり、継続した視点で子どもを見ることができています。	日々の記録については、文章だけでなく写真も併用しながら、できるだけ具体的に共有することを意識しています。 「何をしたか」だけでなく、「どんな様子だったか」「どう変化してきているか」が伝わるようにすることで、職員間でも認識のズレが出にくくなっています。 また、空いた時間で確認できるようにし、まとまった時間が取れなくても情報が回るような運用をしています。	今後は、情報の量が増えてきている分、整理の仕方も含めて見直ししていく必要があると考えています。 保護者への伝え方についても、より分かりやすくなるよう工夫しながら、支援の内容が伝わりやすい形に整えていきたいと考えています。
2	児童指導員や保育士に加えて、作業療法士や言語聴覚士、看護師などが在籍しており、それぞれの専門性を活かしながら支援に関わっています。 一つの視点だけでなく、複数の視点から子どもの様子を見ることができると、子どもの特性に応じた関わり方を検討しやすい環境になっています。	日々の支援の中で気づいた点については、ミーティング等の場で共有し、必要に応じて支援方法の見直しを行っています。 専門職の意見も取り入れながら、「この子にはどの関わりが合っているか」を都度考えるようにしています。 また、現場での実際の様子と専門的な視点をすり合わせながら支援を進めています。	支援計画については、形式的なものにならないよう、実際の支援としっかり結びつく形で見直しを続けていきたいと考えています。 子どもの変化に応じて柔軟に調整しながら、より個性のある支援に繋がっていききたいと思っています。
3	保護者の方とのやり取りを大切にしており、日々の活動の様子や子どもの変化について、できるだけ具体的にお伝えするようにしています。 提供記録を通して、事業所での様子がイメージできるようにすることで、安心して利用していただけるようにしています。 また、集団での活動を通じて、友達との関わりや社会性を育てることも意識しています。	活動の様子については、写真を活用することで、保護者の方にもイメージしやすい形でお伝えしています。 また、日常的なやり取りの中で、家庭での様子を教えていただいたり、こちらから関わり方の提案をさせていただいたりしながら、無理のない形で連携を取っています。	地域との関わりについては、今後少しずつ広げていきたいと考えています。 まずは公園や外出活動の中で、地域の子どもたちと自然に関われるような機会を増やし、無理のない形で社会性の経験を積めるようにしていきたいと思っています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもたちとの交流については、現状あまり機会を作れていない状況があります。	安全面や活動の調整の難しさもあり、意図的に交流の場を設定するところまではできていないのが現状です。	今後は、公園や外出活動を通じて、自然な形で地域の子どもたちと関われる機会を少しずつ増やしていきたいと考えています。
2	支援終了後は送迎業務があるため、職員同士でしっかりと振り返りの時間を取ることが難しい日があります。また、情報共有自体はできているものの、やり方にばらつきがある部分もあります。	時間的な制約が大きく、まとまった時間を確保することが難しい業務構造になっています。また、複数の方法を併用しているため、どこを見ればよいか分かりづらくなることがあります。	ICTツールを活用し、短い時間でも必要な情報が共有できるような形にし、振り返りの質を落とさない工夫をしていきます。また、情報のまとめ方やルールを整理し、誰でも同じように情報を確認できる状態を目指していきます。